

(4) 令和7年度 学校評価報告書（目標設定） 定時制

| | 視点 | 4年間の目標 (令和6年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|---------------------|--|--|--|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 1 | 教育課程 学習指導 | ① 社会で求められる基礎・基本的な学力や技能を定着させ、それらを活用できる能力を養うためにきめ細かな学習指導・個別支援の充実を図る。 ② 本校の育てたい生徒像の実現に向けた特色ある教育課程を編成する。 | ① 生徒の特性や学習到達度に対応した学習活動の充実を図り、生徒の主体的な学びを充実させ、ICT 機器を活用した授業改善を引き続き推進する。 ② 育てたい生徒像を実現するために教育課程を展開し、教科横断的な学びを意識したブラッシュアップを図る。 | ① 学習内容のまとまりごとの振り返りを徹底し、基礎学力の定着状況を把握し、主体的な学習活動へ反映する。ICT 機器を積極的に利活用し、学習内容の理解を深める。 ② 組織的な授業改善が図れるよう、校内授業研修会等を引き続き実施する。 | ① 生徒による授業評価の「授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた」の数値が3.6以上か。 ② 授業の改善・工夫にICT 機器を効果的に利活用することができたか。 ② 組織的な授業改善が図れるよう、校内授業研修会等を引き続き実施できたか。 |
| 2 | (幼児・児童・) 生徒指導・支援 | ① 基本的生活習慣を確立させ、社会生活で求められる規範意識や判断力を身につけさせ、他者と協働できる態度を育てる。 ② 生徒一人ひとりが得意分野や強みを活かせるよう、自己肯定感の高揚に繋がる支援体制の充実を図る。 | ① 生徒の生活習慣を把握し、健康管理や食育等の多角的な視点からも生徒支援を行い、規則正しい生活習慣を確立する。 ② 生徒一人ひとりが積極的に取り組める学校行事等を教員間の意識共有・統一を図りながら企画、立案する。 | ① 生徒支援を充実させるために、かながわサポートドックの情報・評価を積極的に活用するとともに、関係機関とも連携して、相談・指導の充実を図る。 ② 特別活動や各種学校行事等において、生徒が主体的に活動できるよう、職員と生徒の連携を密にする。 | ① かながわサポートドックの評価を SC、SSW とも共有しながら、適切な生徒支援ができたか。 ② 行事ごとに生徒アンケート等を実施し、生徒が主体的に取り組みながら達成感を得られる企画とすることができたか。 |
| 3 | 進路指導・支援 | 生徒一人ひとりの進路希望の実現に向け、4年間を見通し、学年間での連携を図りながら、段階的かつ組織的な進路指導・支援体制を構築する。 | ① 3年間または4年間を見据えて「進路設計」「進学」「就職」について認識できるようなキャリア教育の指導方法を確立し、一人ひとりに寄り添った指導を行う。 ② 地域との関わりの中で、進路の意識を高め、進路実現に向けた取組を推進する。 | ① 学年ごとに目的を明確にした進路ガイダンスを実施し、情報提供を行うとともに、計画的かつ段階的な進路指導体制を整備する。 ② 在学中の就労経験やインターンシップ、総合的な探究の時間を活用しながら職業観や勤労観を養う。 | ① 進路行事後のアンケート結果及びキャリアパスポート等から、生徒の充実感や進路意識の向上を図ることができたか。 ② インターンシップや総合的な探究の時間の成果として、進路未決定の卒業生をなくす（減らす）ことができたか。 |
| 4 | 地域等との協働 | ① 地域の中の学校として、地域との関わりやつながりを取り入れた教育活動を充実させ、学校と地域の活性化を図る。 ② 学校からの情報発信を積極的に広報し、家庭や地域社会との連携や交流を深め、地域に根差した学校づくりを推進する。 | ① 引き続き、地元自治会、地元関係機関との連携や交流を積極的に進め、主体的に学びに向かう姿勢を育む。 ② 家庭や地域からの理解を深めるため、学校ホームページ等により効果的な情報発信を行う。 | ① 地域行事へのボランティア参加や自治会との交流を積極的に図る。 ② 学校ホームページや学校説明会等で、本校定時制の特色や生徒の活動の様子が伝わる広報活動を積極的に行う。 | ① 卒業時に実施する特色アンケートにおいて活動に対する肯定的回答が8割に達しているか。 ② 学校ホームページや学校説明会を通して、本校定時制の特色や魅力について情報を更新しながら本校の教育活動を広報できたか。 |
| 5 | 学校管理 学校運営 | ① 生徒への支援等の時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ② 防災意識や危機管理能力を高め、生徒の安全安心な学校生活を確保する。 | ① 校務におけるICT 機器の積極的な利活用や業務の見直し等により、引き続き効果的な業務の効率化を推進する。 ② 夜間定時制として地域の実態に則した、実践的な防災訓練の形態を検討する。 | ① ICT 機器の利活用を一層推進し、教職員間の業務連絡や各種会議を円滑に行う。 ② 防災マニュアルや訓練の内容等について、適切に実施できるよう見直し、検討する。 | ① オンライン環境や業務の整理など、働き方改革をさらに進め、生徒と向き合う時間を十分に確保できたか。 ② 生徒の在校が夜間であることを踏まえ、避難訓練の意義を理解し、訓練を実施できたか。 |